

九 四洮鉄道ニ関スル件	四三四
一〇 湖南地方ニ於ケル南北両軍間抗戦ノ際ノ日本側被害一件	四五四
一一 北満守備隊撤退ニ関スル件	四六五
一二 中国内政関係雑件	四八七
附録 日本外交文書大正十一年第二冊日附索引	

事項一 对中国新借款団ニ関スル件

一 一月三十一日 在華盛頓華府會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
伊国銀行団ノ对中国借款団参加ニ付斡旋ヲ得
度旨ノ伊国全權申出ニ対スル我方回答振ニ関
シ請訓ノ件

會議第五六九号(至急) (二月一日接受)
伊太利全權ヨリ一月二十六日附書面ヲ以テ伊国銀行団ノ对
支借款団参加方ニ付日本銀行団ニ斡旋ヲ得度キ旨(伊国側
ニテハ同全權出發迄ニ何分ノ回答ヲ得度キ希望ナリ)我カ
全權ニ申出テ右ニ対スル回答振ニ付テハ英米兩國側ノ振合
ヲモ確メタル上可成同一趣旨即チ本件ハ第一ニ關係四国銀
行団間ノ考量ニ俟ツヘキ問題ナルヲ以テ右諸銀行団ニ於テ
異議無キニ於テハ政府トシテモ異議無シトノ意味ニ於テ回
答致シ可然ト思考スルモ為念何分ノ儀至急回電アリタシ

二 二月三日 内田外務大臣ヨリ
在華盛頓華府會議代表宛(電報)

伊国銀行団ノ对中国借款団参加方ニ付回訓ノ

一 对中国新借款団ニ関スル件 一二三

件

會議第三八七号
貴電會議第五六九号ニ関シ
御来示ノ通取計ハレ差支ナシ

三 二月十八日 島正金銀行借款課長ヨリ
芳沢亜細亞局長宛
伊国銀行団ノ对中国新借款団加入申込ニ関ス
ル正金紐育支店ヨリ小田切正金取締役宛報告
写送付ノ件

附屬書 一月二十四日附正金紐育支店ヨリ本店頭取席宛
書信写
右報告写送附ノ件

第十一/五九号 大正十一年二月十八日
(二月十八日接受)

横浜正金銀行
頭取席借款課長 島 芳藏(印)
外務省亜細亞局長 芳沢 謙吉殿

拝啓

伊太利銀行団対支新借款団ニ加入申込ニ関スル在華府小田切取締役宛報告を送附ノ件

本件ニ関シ弊行紐育支店ヨリ去月二十四日附ヲ以テ別紙写ノ通り報告致越候ニ付茲許同封供貴覽候 敬具

(附屬書)

一月二十四日附正金銀行紐育支店ヨリ本店頭取席宛

伊太利銀行団対支借款団ニ加入申込ニ関スル小田切取締役宛報告を送附ノ件

拝啓伊太利銀行団対支借款団ニ加入申込ニ関シ其后ノ経過ニツキ別紙写ノ通り小田切取締役ニ報告致候ニ付御参考迄ニ拝送供貴覽申候 敬具

写送り先 頭取、倫敦、北京

(別紙)

一月二十三日附正金紐育支店柏木秀茂ヨリ在華府小田切正金取締役宛書信写

伊國銀行団ノ对中国借款団ニ加入申込ニ関スル件

大正十一年一月二十三日

横浜正金銀行紐育支店

柏本 秀茂

在華府

取締役 小田切 万寿之助殿

拝啓御照会相蒙リ候上掲ノ件ニツキテハ不取敢電話ヲ以テ大略御報告申上置候通り本日 J. P. Morgan & Co. の

Simpson, Fagon 両氏ニ面談伊太利銀行団対支借款団ニ加入申込ニ関スル其后ノ経過ニツキ相訊申候処昨年十二月

同国 Senator Albertini, Dr. Giannini, Domenico Gidoni (N. Y. representative of Italian Banking Group) の三

氏 Lamont ヲ訪問シ其節ノ会談ニテ Lamont 氏ヨリ伊太利団カ対支借款団ニ加入ノ条件トシテ

(一) 伊太利政府ガ同銀行団ヲ Support スル事

(二) 伊太利ノ銀行カ之ヲ Support スル事

(三) 支那ニ於ケル Concession ニ出資スル事

ノ三条件ヲ充タシ且昨年英國団 Addisノ提出セル諸条件ヲ承諾スルニ於テハ加入差問無之旨回答セシ由ニテ尚右諸条件ニ関シテハ当国 State Department モ之ニ承認ヲ与ヘタル由ニ御座候

右電話確認旁々御報告申上候 敬具

写送り先 頭取、北京、倫敦

四 四月二十五日

在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

中国ノ鐵道借款特ニ外人監理ノ必要ニ付米國

団代表スチーヴンスノ演説及新聞論調報告ノ

件

公第二〇三號

(五月一日接受)

大正十一年四月二十五日

在支那

臨時代理公使 吉田 伊三郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

二月十八日公第五二二號往信「アデス」氏演説特ニ末段ニ関聯シ当地新借款団米國団代表 Frederick W. Stevens 氏ノ四月十五日午後北京大學ニ於テ鐵道借款及外人監理問題ニ関シ一場ノ演説ヲ試ミタル趣ナルガ当地新聞ノ伝フル所ニ拠レバ同氏ハ支那ガ大ニ実業ヲ振興セント欲セバ先ツ大ニ鐵道ヲ敷設スルノ切要ナルコト米國モ亦欧州ニ資金ヲ募リテ東部ト「ミシシッピ」河以西トヲ繋ギタル為西部諸州現時ノ繁榮ヲ来シタルコト之ヲ支那ニ例フレバ鐵道ノ連絡無キ為四川省ノ如キハ他大陸ニ離レタル一大帝國タルノ觀ア

リテ饑饉等ノ際同省ノ穀物等如何ニ豊富ナリトモ他省ノ窮乏ヲ救ヒ得ザルコト等ヲ挙ゲテ支那ノ東西南北ヲ連絡シ支那那業ノ振興及政治的統一ニ切要ナル鐵道及道路網ヲ造ル為數億元ノ鐵道敷設資金ヲ何処ニ求ムベキカラ決定スルハ支那國民自身ノ問題ナリト断ジ更ニ右鐵道敷設借款ニ関聯シテ外人監理問題ニ移リテ曰ク間々外人ノ監理ハ支那主權ノ侵害ナリト言フ者アルモ余ハ本問題ヲ純然タル營業問題トシテ論ズルモノニテ此ノ如キ監理ヲ伴フ鐵道其他ノ建設的目的ニ用ヒラルル一切ノ外國借款ガ支那ノ利益ナル場合ニハ支那ハ之ヲ承諾スベク然ラザル場合ニハ拒絕スベキノミ只茲ニ根本問題トシテ繰返スノ必要アルハ米國若クハ其他諸國ノ銀行家ガ支那ニ対シ大借款ヲ行フ場合該金額ガ果シテ有効ニ使用セラルルヤ將又償還ガ有効ニ保証セラルルヤノ問題ヲ考慮スルコトナクシテ右借款ニ同意スルト仮想スルハ大ナル誤ナルコト之ナリ凡テノ借款ガ銀行業ノ法則ニ遵ッテ行ハルベキハ当然ノ事理ニシテ監理問題モ畢竟此見地ニ基クモノニシテ支那公債ノ売行ヲ可能ナラシムルニ必要ナル程度ニ於テ適當ノ監理方法規定セラレザルベカラズ然ラズンバ全然借款ハ不能トナルベシ投資者ヲ保護スル

為借款商議ニ当リ此種事項ヲ念頭ニ置クハ銀行家ノ責務ナリ即チ借款監理ニ依リ該金額ガ果シテ借款規約通り現実有効ニ使用セラレ経営宜シキヲ得テ浪費ヲ避ケシムルヲ要ス斯クスル時ハ公債ノ売行容易ニ常ニ外國市場ノ信用ヲ維持スルヲ得ベク之レ銀行家ニトリ實際上頗ル重要ノ事柄ナリト説キ更ニ巨額ノ鐵道敷設資金ヲ有効ニ使用スル為ニ經驗ニ富メル技師等專門家ヲ内外ニ求メテ敷設工事等ノ有効ナル監督ノ必要ナルコトヲ事例ヲ引キテ説明スル所アリ尚外人監理問題ハ全然銀行營業上ノ理由ニ基クガ故ニ主權問題ニハ全ク關係無キコトヲ繰返シタル後外國監理ノ範圍限度ニ關スル通説ヲ述ベテ(一)有能且公平ナルコト(二)政治的色彩ヲ帯ビザルコト(三)支那ノ商業及實業ノ將來ニ及ボス影響ヲ看過セザルコト(四)門戸開放ノ政策ニ背反セザルコト(五)支那ニ於ケル各國民ノ商業上實業上ノ機會均等ヲ念頭ニ置クコト(六)監督條項ハ借款規約附屬協定ニ於テ明文ヲ以テ規定セラルベキコト但事情ノ變化ニ伴ヒ改變シ得ルノ余地ヲ存スルコト等ヲ挙げ外國投資者ガ支那政府ノ公債ヲ信用スルコトハ支那ヲシテ鐵道發達ニ成功セシムルノ條件ナリ仍テ債權者ノ見地ヨリ受諾シ得ル監理方法ヲ設クルコト支那ノ利

ザルガ如キ方法トシテ鐵道敷設借款契約締結ノ際(一)該借款ヨリスル手取金ノ凡テハ正式ニ交通部員トシテ任命セラルベキ外人ノ許可無クシテ使用シ得ザルコト(二)該鐵道ガ有効ニ運轉シ元利支払ガ正規ニ行ハルコトヲ十分保証スル為該鐵道敷設後ノ作業及鐵道收入ノ用途ニ關シ右外人ニ發言權ヲ有セシメ且該外人ノ許可無クシテ鐵道收入ヲ使用シ得ザル等ノ規定ヲ挿入スベシ此ノ如キ規定ヲ設クルニ於テハ右外人ハ支那政府ノ官吏ナルガ故ニ支那主權侵害ノ問題起ル能ハズ此種方案ハ既ニ内債整理ニ關シ實行セラレタル所ナリ云々ト論述致居候別紙新聞切抜添附為御參考此段報告申進候也

註 新聞切抜省略

五 四月二十七日 島正金銀行借款課長ヨリ
芳沢亜細亞局長宛

对中国借款団英國代表アデイスノ米國代表
表ラモントノ午餐会ニ於ケル演說要領報告ノ
件

第十一ノ一二五号 大正十一年四月二十七日
(四月二十八日接受)

一 对中国新借款団ニ関スル件 五

益ナルベシ但上述ノ限界ニ止ムベキモノトス余ハ慎重ニ協定セラレ率直ニ一時的の必要トシテ認メラレタル監理ハ支那ノ天然資源開發實業振興ニ要スル巨額ノ資金ヲ内外ニ仰グ所以ナリト信ズト終結致居候

右ニ對シ外字新聞ノ多クハ沈黙ヲ守リ居ルモ独リ米國系北京「リーダー」ハ四月十九日ノ社説ニ於テ「外國ノ監理——可能ノ一方案」ト題シ「スチーヴンス」氏ノ所説ニ賛意ヲ表シ鐵道敷設ニ當リテハ莫大ノ資金ヲ要スルハ見易キ理ナル処例ヘバ漢口重慶線ノミニテモ二億元乃至三億元ヲ要スベク鐵道敷設ガ話題ニ上ル場合必ズ先ヅ之ニ要スル資金ヲ考ヘザルベカラズ右資金ヲ得ル為其ノ用途ニ付相当ノ監理ヲ行フコトハ当然ニシテ「ステイヴンス」ノ主張スル如ク純然タル營業上ノ問題トシテ考慮スベキ問題タリ債權者ノ利益保護ノ為新事業ノ創設及初期ノ經營ヲ監理スルコトハ寧ろ尋常ノ事宜ニ屬ス勿論此ノ如キ監理ハ債權者保護上必要無キニ至リ廢止セラルベク又債務ヲ正直ニ履行スル限り債權者關係國政府ノ干渉ヲ招クノ理由ナシ又選任及行動ニ關シ全然支那政府ノ拘束ヲ受ケザル外國人ニ依ル監理ガ果シテ合法ナリヤ否ヤハ明ナラズ從テ此等ノ難點ニ触レ

横浜正金銀行

頭取席借款課長 島 芳蔵(印)

外務省亞細亞局長 芳沢 謙吉殿

拝啓

Lamont 午餐会ニ於ケル Sir Charles Addis 演說要領報告ノ件

本件ニ關シ弊行紐育支店ヨリ去三月二十八日附ヲ以テ別紙寫ノ通り報告致越候ニ付玆許同封供貴覽候 敬具

(別紙)

三月二十八日附正金銀行紐育支店ヨリ本店頭取席宛書信寫
ラモント午餐会ニ於ケルアデイスノ演說要領報告ノ件
大正十一年三月二十八日

横浜正金銀行

紐育支店

頭取席

御中

拝啓陳者一昨日 S. C. Addis 来紐本日同氏ヲ主賓トセル
Lamont ノ午餐会ニ於ケル Addis ノ試ミタル演說ノ要領左ノ
如クニ御座候

余カ親シク支那ニ往来シテ以来茲ニ約二十年此間ニ於ケル同國ノ變遷發達ハ実ニ著シキモノアリ政治上經濟上今日全ク其面目ヲ新ニセリ余ガ過去二十年ノ經驗及同國ノ歴史ノ示ス所ヨリ見レバ同國現時ノ状態ハ寧ロ異例ニ屬ス可キモノニシテ南北分立シ互ニ紛争ヲ事トシ同國全般ノ福祉ニ対シ何等貢獻スル所ナク頗ル憂慮ス可キ状態ニ在リ是ハ支那國民ノ罪ニアラズシテ主トシテ為政者互ニ其權力ノ争奪ニ職由ス切言スレバ支那國民ハ寧ロ与リ知ラザル所ナリト云フモ可ナリ若シ過去ノ歴史ハ繰リ返スモノト見レバ同國現時ノ如キ南北分立ハ永續セザル可ク早晚統一渾融ノ時機アル可シ否現ニ南北両者ハ漸次互ニ接近シツツアル模様ニテ或ハ近キ将来ニ於テ何等カノ形ヲ以テ實現セラル可シト信ズ而シテ今后支那ニ於テ尤モ信賴スベキハ Young China ニシテ其覺醒ガ支那将来ニ多大ノ關係アル可キハ疑ヲ容レズ又過般華府ニ開催セラレシ列國會議ノ結果支那ノ利スル所頗ル多ク将来同國發展ノ為メ多大ノ Advantage ヲ獲得セルハ疑ヲ容レザル可シ

次ニ対支新借款团ニ対シ近來說ヲナスモノアリ甚ダシキ

写送附先 倫敦、北京

六 五月九日

内田外務大臣ヨリ
在英国德川臨時代理大使宛(電報)

倫敦ニ於ケル中国借款团會議ニ臨ム日本代表

指導方針ニ関スル件

附記一 倫敦ニ於ケル借款团會議ニ対スル方針協議要領

二 右會議ニ対スル注意事項

第一八一号(大至急)

貴地ニ開催ノ借款团「カウンシル」ニ於テ左記各項ノ趣旨ヲ体シ措置スル様貴地正金支店長ヘ伝ヘラレ貴官ニ於テモ此趣旨ヲ以テ適宜御指導アリタシ

一、日本側ハ借款团組織ノ根本主義タル協調ノ精神ニ依リ出来得ル限り借款团ノ活動ヲ助長シタキ希望ナルニ付キ機宜ニ応シ我方ノ態度ヲ表明スルト同時ニ各種問題ノ討議ニモ此ノ方針ヲ以テ蒞マレ度シ

二、政治的問題ノ討議ハ前紐育會議ノ方針通り一切之ヲ避ケラレタシ

三、伊国団体加入問題ニ付テハ我方ヨリ進ミテ反対ノ必要

一 对中国新借款团ニ関スル件 六

ハ是ガ解散ヲ唱フルモノアルガ如キモ是ハ稍失当ノ見タルヲ免レズ蓋シ対支借款团ノ創設ハ支那ニ対スル利益ノ為メニシテ決シテ同國ニ不利益ヲ与フルモノニアラズ同國財政經濟上ニ資スル所尠少ナリト云フ可カラズ同借款团成立以前ニ於テハ各國資本团各自各様自家利益ヲ主トシ殆ンド無理想無成算ノ借款ヲ為セルニ過ギズ是ガ為メ支那財政紊亂ノ禍根ヲ与ヘタル嫌ナキニアラズ新借款团ノ成立ハ一面ニ於テハ支那内地銀行团ノ団体ヲ促シ他面ニ於テハ海外資本的勢力ノ惡影響ヲ驅逐シ同國ニ与ヘシ無形ノ利益頗ル大ナルモノアリ然ルニ頃者対支借款团ガ其成立以來是ト云フ程ノ仕事ノ為サザルヲ難ズルモノアルモ余ノ見ヲ以テスレバ尙其時機ニアラザルナリ須ラク忍耐シテ其時期ノ到来ヲ待ツ事肝要ナリ早急ニ仕事ヲ為サントスルハ寧ロ余ノ執ラザル事ナリ若シ今日借款团ヲ解散セバ更ニ来ル可キハ列國ノ勢力範圍ニシテ其弊害ハ列國ガ過去数十年親シク經驗アル処ニ過ギズシテ此再現ハ列國ノ尤モ嫌フ処ナルヲ疑ハズ云々

右演說ハ来會者ニ多大ノ感動ヲ与ヘタル模様ニ御座候
右大略御參考迄ニ御報告申上候 敬具

ナキニ付大勢ニ順応セラレ差支ナシ

四、中英公司借款問題ニ關聯シテ生シタル借款团規約第二条第二項ノ解釋問題上程セラレタルトキハ具体的問題發生ノ際協調ノ精神ニ基キ満足ニ解決スルノ方法アルヘク予メ斯ル解釋問題ヲ云為スルノ必要ナルヘキ旨ヲ指摘シ之カ論議ヲ避ケラレ度強テ態度ヲ表明スルノ必要ニ迫ラレタル場合ハ意見表明前請訓アリタシ

五、一昨年十月紐育會議ニ於テ英國ハ「ボーリング」商會所有ノモノ即チ沙興、雲南大理兩鐵道ニ關スル利權ノ提供方ヲ言明シ米國ハ「シームス、ケリー」會社所有利權全部ノ提供ヲ言明シ仏國ハ中法實業銀行所有利權ノ實質価値ナキヲ理由トシテ之カ提供ヲ難ンスル模様ナリシカ會議後ニ至リ本國銀行团本部ニ対シ右提供方ヲ電票セル行懸アリ

今回會議ニ於テ適當ノ機會ニ之等利權提供問題ノ成行ヲ質問セラレタシ

尚右ニ關聯シ我方ヨリ主義上提供ヲ声明セル山東延長線ニ付テハ既ニ日支山東條約中ニ規定セラレ居リ手続上ニ於テモ困難ノ排除セラレタルコトヲ言明セラレ差支ナシ

六、其他ノ問題ニ付テハ本部ノ承諾ヲ条件トシテ適宜討議ニ参加シ差支ナキモ重要問題ハ予メ請訓アリタシ
七、支那ノ現時ノ政治上ノ状態ヲ篤ト考慮スルコト今回ノ同国内乱ノ關係モアリ極メテ緊要ナルニ付現実ノ貸附ノ問題話頭ニ上ル場合ニハ一応政府ニ請訓ノ上ニ非ザレバ何等「コムミット」セザル様致サレ度シ

(附記一)

倫敦ニ於テ開催セラルヘキ借款団會議ニ対スル方針協議要領

大正十一年五月八日於岡部亜細亞局第一課長室

岡部、重光兩書記官

村井、岸田、栗原事務官

大蔵省 青木事務官

小田切、武内両正金銀行取締役

本件ニ関スル我方方針ヲ決定スルニハ先以テ今次會議ノ性質如何ヲ知ル必要アリトテ劈頭種々意見ノ交換アリ武内取締役ヨリ正金側ニモ何等の確ノ情報ナク判断ニ苦シム次第ナルカ諸般ノ事情ヲ綜合スルニ紐育會議ノ如キ重要ノ意味ヲ有スルモノニハ無之主トシテ其後問題トナリタルモノニ付キ議題ヲ定メス論議セムトスルモノナルヘク現ニ何等

「アジェンダ」ノ如キモノサヘモ決定シ居ラサル次第ナリトノ説明アリ小田切取締役モ亦會議ニ対スル英米側ノ意向ヲ推知スル材料トシテハ紐育ニ於ケル「アデイス」ノ演説位ニシテ同人ハ(一)借款団ノ事業トシテハ政治借款ヲ除外スルヲ可トスルモ例外トシテハ旧債權ヲ整理スル為長期ノ「ファンディング、ローン」ヲ締結スル必要アリ(二)独立シタル地方政府ヲ對手トシテ借款団ノ事業ヲ進捗セシムヘシトノ意見ヲ演説シタルカ「ラモント」トノ談合ニモ右ノ趣旨問題トナリタルモノカト推察セラルルニ付結局此辺ノ問題議題トナルモノナルヘシトノ所見ヲ述ヘタリ

會議ノ性質曖昧ニシテ予メ議題ヲ推知スルコト困難ナルヲ以テ結局村井事務官研究ノ別紙方針案ヲ基礎トシ右ノ中ヨリ問題トナルヘキ案件ヲ抽出シテ協議シ置クコトトシタリ一、借款団規約第二条第二項ノ解釈問題

村井事務官ヨリ本件經過並ニ原案ノ説明アリ小田切取締役ハ鐵道支線及延長線ヲ借款団共同事業ニ当然提供スヘキモノトスル「ステイブンズ」ノ意見ハ論理上賛成ナルノミナラス滿蒙諸鐵道ニ対シテモ特ニ從來ノ如キ態度ヲ固持スル必要ヲ見サルニ付寧ロ同人ノ意見ヲ支持シ我

方活動範圍ヲ支那全土ニ拡クルコトトスル方得策ナルヘク巴音太拉支線ノ如キモ本線ヲ我方单独ノ資本ヲ以テ經營スル以上短距離ノ支線ニツキ争フ必要ナク寧ロ之ヲ借款団ニ提供スヘキモノニテ我方ノ措置ハ寧ロ不当ト思考スル旨ヲ述ヘ武内取締役ヨリ梶原「ラモント」協議當時ニ於テモ「サブスタンスアル、プログレス」ノ意義ニツキ何等の確ノ諒解ナク要スルニ既存ノ事業ニハ手ヲ付ケスシテ将来ノ事業ヲ共同ニスヘシト云フカ如キ漠然タル諒解アリタルニ過キストテ會議ノ模様説明アリ小田切取締役ヨリ更ニ本件ノ如キハ寧ロ之ヲ事實問題トシ公募セラルヘキ金額ノ一定額ヲ標準トシテ提供ノ義務ノ有無ヲ決スルコトトスル方実行のナルヘシトノ意見等アリタルカ結局本件ニ関スル訓令ハ差控ユルコトニ決定シ解釈トシテハ原案通ニテ差支ナカルヘシトノコトニ決シタリ

二、煙酒借款

村井事務官ヨリ經過説明アリ岡部書記官ヨリ最近在本邦米國大使ヨリ米國銀行團ニ於テ本件ヲ引受ケサルコトニ決定シタル旨通牒アリタルニ付一応英國側ノ意嚮探究方在英大使ニ電報スルコトトシアルモ其必要アルヤ否ヤ疑

ハシク發電見合セアル次第ヲ披露シタルカ武内取締役ヨリ利子ノ取立頗ル困難ナルノミナラス担保タル煙酒税ノ真価疑ハシキモノアリテ實際上ノ価値至ツテ尠ナキ本借款ノ引受ハ何人モ之ヲ躊躇スル所ナルヘク米國銀行團ノ不引受ハ理由アリト思考スル旨ヲ述ヘ岸田事務官ヨリ本件ハ借款其物ノ価値如何ノ問題ニアラスシテ感情乃至政治的問題ト云フヘク殊ニ日米間ノ問題ニ止マルカ如キ感アルヲ以テ万々會議ノ問題トナルカ如キコトナカルヘシトノ意見出テタルカ小田切取締役之ニ賛シ本問題ハ既ニ一段落ヲ告ケタルモノト看做シ之ニ触レサルコトト致シテハ如何トノ提議アリ一同之ニ賛成シ右ノ趣旨ニテ訓令スルコトニ決セリ

三、湖広鐵道問題

小田切取締役ヨリ本件ハ先以テ會議ノ問題トナルカ如キコトナカルヘシトノ意見アリタルニヨリ本日協議スルニ至ラサリシ他ノ案件同様會議ノ問題トナリタル場合ニ更ニ攻究スルコトトシタリ

四、尚訓令ニ當リ一般のニ日本ハ依然協調ノ精神ヲ守リ借款団ノ活用ヲ希望シ居ル大体論ヲ會議ニ於テ開陳セシム

ル様申添フル方得策ナルヘシトノ意見アリ一同之ニ賛同シタリ

註 別紙方針案ニ付テハ左掲ノ附記ニ文書参照

(附記二)

大正十一年五月八日 (村井事務官調)

倫敦ニ於テ開催セラルヘキ借款団會議ニ対スル注意事項

一、政治的問題ノ討議

政治的問題ノ討議ハ大体前回會議ニ於ケル方針ヲ踏襲シ一切之ヲ避クルニカムヘシ但シ事宜ニ依リ自由討議ヲ試ムルハ差支ナシ

二、支那銀行団加入問題

対支借款団成立以來茲ニ一年有半未タ以テ其ノ活動ヲ開始シ得サルハ支那朝野ニ於テ借款団ノ趣旨精神ヲ誤解スルモノ多ク為ニ支那政府ニ於テモ借款団ヲ承認シ之ト正式ノ関涉ヲ有スルニ至ルヲ欲セサルニ因レリ故ニ借款団当面ノ急務ハ右誤解ヲ正シ以テ支那政府ノ借款団ニ対スル態度ヲ革メシムルニ在ルヘシ

此ノ見地ヨリ支那団体ノ借款団加入問題ハ頗ル考究ノ価値アル題目タラストセス

トナク一々倫敦本部ニ請訓スルヲ常トシ敏活ナル行動ヲ執リ得サルノ憾ナシトセス将来ハ金融方面其他極メテ重要ナル問題ハ之ヲ倫敦本部ニ請訓スルノ要アルヘキモ其他技術上等實際の問題ハ北京代表者ヲシテ討議決定セシメ一々倫敦本部ニ請訓スルノ煩ヲ省カシムルコト可ナルヘク右ハ今次會議ノ情勢ニ応シ我方ヨリ提言スルコトトスヘシ

四、伊国団体加入問題

伊太利団体ノ加入問題ニ付テハ紐育會議ニ於テハ之ヲ他日ノ考慮ニ延期スヘキ旨決議セル処其ノ後伊国政府及伊国団体ヨリ各關係国政府及団体ニ対シ伊国団体加入方夫々申入ルル所アリタルモ執レモ未タ承諾ヲ与フルニ至ラサルカ帝國政府ニ対シテハ大正十年一月十二日在本邦伊国大使ヨリ申出アリ右ニ対シ帝國政府ハ他国側回答ノ趣旨ヲ参酌シ同年五月二十六日附ヲ以テ伊国大使ニ対シ日本政府ハ伊太利資本団ノ参加方ニ関シテハ専門的見地ヨリ考慮スヘキ事項ヲモ包含スト認ムルヲ以テ先以テ借款団ニ属スル各銀行団ヲシテ篤ト考究ヲ遂ケシムルコト可然ト認メ右ノ趣日本銀行団ニ示達シ置キタル旨回答セリ

次テ過般華府會議ノ際ニモ伊国全權ヨリ各国全權ニ申入ル

既ニ前年紐育會議ニ於テモ支那団体カ代表的ナル國民の單位ヲ組織シ其ノ負担スヘキ義務ヲ履行スルノ用意アルニ於テハ該団体ノ協力ヲ歡迎スルコト及本借款団北京代表者ニ訓令シ之ヲ財政及交通ノ両部ニ通告セシムヘキコトヲ決議シ居ルヲ以テ此ノ際本問題ニ対シ更ニ討議ヲ尽シ以テ其ノ實現ヲ企図スルコト敢テ困難ナラサルト共ニ右ハ前記支那政府ノ借款団承認ヲ誘致スル有力ノ一手段タルヲ失ハサルヘシ

殊ニ之ヲ我方ヨリ見レハ支那ニ於テ借款団ヲ承認セサル結果山東鐵道延長線問題ニ関スル山東條約ノ規定ニ於テモ頗ル曖昧ナル字句ヲ用フルノ已ムヲ得サルニ至リシ次第ニシテ從テ支那団体ヲ本借款団ニ加入セシメ因テ以テ支那政府ヲシテ借款団ヲ承認セシムルハ前記山東條約ノ規定ヲ明確ナラシムル所以ナルノミナラス他ノ諸般ノ關係ヨリ見ルモ支那団体ノ加入ヲ德憑スルハ我方ニ取り得策ナリト思考セラルルカ故ニ會議ノ情勢ニ応シ適宜之力達成ニ努力スルヲ要ス

三、北京代表者ノ権限

從來ノ慣行ニ依レハ北京ニ駐在スル各国団体代表者ハ事巨細

ル所アリ帝國全權ハ右ニ対シ本件ハ關係四国銀行団間ノ考量ニ俟ツヘキ問題ナルヲ以テ該銀行団ニ異議ナク且他關係各国政府ニ於テモ異議ナキニ於テハ帝國政府ニ於テモ之ニ同意スヘキ旨回答セリ

依テ今回ノ借款団會議ニ於テ之ニ対スル窮極ノ態度ヲ決定スルノ必要アルヘキ処右ハ我方トシテハ特別ノ利害關係ヲ有セサル問題ニ付主トシテ専門的見地ヨリ其ノ是非ヲ考究シ差支ナク又右専門上ノ障礙ナキ限寧ロ大勢ニ順応スルヲ可トス

五、煙酒借款

紐育會議ノ際米國団体ハ一九一九年ノ市俄古大陸商業銀行借款及一九一九年ノ太平洋拓殖会社借款ノ二ヲ借款団ノ共同事業ニ提供シ且分科委員會ノ進言ニ基キ左ノ決議案ヲ可決採用セリ

米國団体ハ自ラ適當ト認メタルトキハ終局借款団ノ利益ノ為ニ曩ニ太平洋拓殖会社ノ締結シタル米貨五百五十万弗借款ヲ自己ノ計算ヲ以テ引受クルコト且該借款ト共ニ当然讓渡セラルヘキ煙酒稅收入ニ関スル總テノ權利並特權ヲ引受ケムコトヲ米國団体ニ請求スヘキコトヲ決議ス

更ニ借款団ハ太平洋拓殖会社契約ハ現在ノ形式ニ於テハ
続借款ニ対シ実行の基礎ヲ具備セサルモノト思料スルコ
ト在北京代表者ヲシテ全然新タナル契約ヲ協定セシムヘ
キコト並支那政府ニ対シ之等借款団ノ見解ヲ通告スヘキ
コトヲ決議ス

其ノ後米國団ニ於テ右決議ニ基キ太平洋拓殖会社借款引受
ノ手續ヲ竭セシヤ否ヤ不明ナリシヲ以テ帝國政府ヨリ其ノ
成行米國政府ヘ問合ハセ置キタルカ大正十年九月ノ交市俄
古大陸商業銀行代表者「アボット」支那ニ渡来シ支那政府
ト煙酒公売税ヲ担保トスル米貨千六百万弗ノ借款ヲ交渉シ
(其ノ大部分ハ前市俄古大陸商業銀行太平洋拓殖会社兩借
款ノ元利償還及湖広鉄道利札支払等ニ充テ手取残額七十三
万五千弗ヲ煙酒行政改良費ニ充ツル条件)次テ十月末米國
団ヨリ右ニ関シ本邦銀行団ノ参加引受ヲ希望スル旨申出ア
リタル処日本銀行団ニ於テハ慎重考究ノ結果煙酒税現在ノ
状態及煙酒税制度ノ改革ニ関シ右借款ノ企図スル程度ニ於
テハ殆ト担保タル実価ナク且其ノ他ノ条件ニ関シテモ新借
款団手初ノ計画トシテハ不適當ト認メラルトノ理由ヲ以テ
参加引受拒絶ニ決シ帝國政府ノ承認ヲ經其ノ旨米國団ニ回

故ニ本問題ハ右諒解ノ下ニ米國団ノ措置ヲ是認スルノ外ナ
カルヘシト思考ス

五、借款団規約第二條第二項ノ解釈問題

大正十年十月ノ交支那政府ハ京奉鉄道朝陽支線及滬杭甬鉄
道百官紹興間敷設ノ為八百萬元借款方中英公司(英國団体
員)ニ申出タルカ右ニ関シ借款団規約第二條末段「既存契
約」ノ意義ニ関シ北京団体代表間ニ論議ヲ生シ「スティー
ブンス」等ヨリ意見ノ提出ヲ見タルカ本問題ニシテ討議ヲ
見ルニ於テハ我方ニ於テハ左ノ解釈ヲ以テ之ニ蒞ムコトト
スヘシ

(一) 規約第二條第二項「既存契約」トハ規約調印當時存在
セル契約ノミヲ意味スルモノニシテ其内ニ規定セラルル
優先権ニ基キ将来締結セラルヘキ借款契約ヲモ包含スル
モノナリト解スルヲ得ス(一)第一項ニハ「既存及将来ノ契
約」トアルニ拘ラス第二項ニ単ニ「既存契約」トアルニ
過キス(二)例外規定ハ嚴格ニ解釈セサルヘカラス(三)借款団
組織ノ主義精神ハ実ニ斯ル優先権ノ主張ヲ抛棄スルニア
リタレハナリ

答セル行懸アリ尚英仏団体モ参加ヲ拒絶セル趣ニシテ米國
団モ遂ニ態度ヲ変シ本借款ハ成立ヲ見スシテ了レリ

然ルニ其後大正十一年在本邦米國大使ヨリ前記帝國政府照
会ニ対スル回答トシテ米國団体ハ太平洋拓殖会社借款ヲ自
ラ引受ケサルコトニ決定セル旨通報シ来レリ

惟フニ前記「アボット」交渉ノ借款ニシテ成立シタラムニ
ハ紐育會議決議ノ米國団ノ煙酒借款引受ノ問題ハ当然解決
セラルル次第ナリシニ拘ラス日英仏ニ於テ参加ヲ拒絶シタ
ル等ノ理由ニ依リ失敗ニ帰セル事情並前記紐育會議決議ニ
依レハ「米國団体ハ自ラ適當ト認メタルトキハ……自己
ノ計算ヲ以テ引受クルコト」トアルニ顧ミ右米國団ノ引受
中止ノ決定ニ対シテハ他國ニ於テ之ヲ非議スルノ理由ニ乏
シキモノト謂ハサルヘカラス尤モ市俄古大陸商業銀行及太
平洋拓殖会社ノ兩借款ハ孰レモ米國団ヨリ借款団ニ提供ヲ
明言シアル次第ナルヲ以テ将来支那政府ニ於テ借款団ヲ承
認セル時ハ之等借款ヲ名実共ニ借款団ニ引継クノ途開カレ
居ルノミナラス其ノ「オプショーン」ニ基ク新規ノ借款モ總
テ借款団ニ提供セラルヘキハ勿論ニシテ右ノ点ハ前記米國
団ノ引受中止決定ニ依リ何等ノ影響ヲ被ムルモノニアラス

(二) 或ハ右ノ見解ヲ是認スルニ於テハ日本ハ梶原「ラモン
ト」交換文書ニ依リ協定セラレタル滿蒙鉄道除外ヲ主張
シ得サルニ至ルヘシトノ疑懼ナキニアラス

然レトモ右梶原「ラモン」交換文書ハ各關係國政府及
団体ニ於テ明確ニ承認セルモノニシテ規約ト同等ノ効力
ヲ有スルモノナルノミナラス右文書ニハ単ニ「何々鉄道
ハ新借款団ノ共同事業ノ範圍外ニアリ」ト記載シアルヲ
以テ既存及将来ノ借款契約總テヲ除外スルモノナリト謂
ハサルヘカラス故ニ梶原「ラモン」諒解ハ規約ノ除外
規定ヲ成スモノト云フヘク何等如上ノ疑懼ヲ抱クノ要ナ
シ

(三) 尤モ右ノ見解ニ依ルニ於テハ梶原「ラモン」交換文
書記載以外ノ滿蒙鉄道借款例ヘハ巴音多拉支線ノ如キ又
ハ漠冶萍公司ノ借款ノ如キモノヲモ借款団ニ提供セサル
ヘカラスルニ至ルノ不利ナキニアラス然レトモ提供ヲ要
スル場合ハ単ニ公募ニ依ル場合ニ現ルルヲ以テ提供ヲ避
ケントセハ公募ニ依ラサレハ可ナルヘク又巴音多拉支線
ノ場合ハ滿蒙除外規定ノ趣旨精神ヨリ之カ除外ヲ主張ス
ルコトモ強チ不可能ニアラスト思考ス

一 对中国新借款团ニ関スル件 六

六、湖広鉄道借款独逸側持分

湖広鉄道借款ニ関スル独逸側持分「クローボン」問題ニ関シテハ我方トシテハ「イニシアチヴ」ヲ執ルコトナク寧ロ大勢順応ニヨルヲ可トス

七、東支鉄道

東支鉄道問題ニシテ上議セラルル場合ニハ日本代表者ハ紐育會議當時ニ於ケル方針即チ本件力關係各政府間ノ問題ニシテ日本資本団ニ於テ之ヲ論議スルノ権限ヲ有セサルヲ以テ其所見ヲ述フル地位ニ在ラス且日本団体ハ本件ハ寧ロ借款団規約ノ範圍外ニ屬スルモノト認ムル旨ヲ声明シ且現ニ華府會議ニ於テモ本問題ヲ外交機關ノ処理ニ委スヘシトノ決議成立シ居レル旨ヲ附言シ置クラ可トス

八、紐育會議決議事項中其ノ後ノ成行ニ関シ

特ニ注意ヲ要スルモノ

(甲)白耳義団加入

白耳義団体加入問題ニ付テハ紐育會議ノ決議ニ基キ在本邦白耳義國代理公使ヨリ大正九年十一月二日附公文ヲ以テ對支新借款団ハ各關係本國政府ノ承認ヲ条件トシテ白耳義資本団ノ参加ヲ決議セリトノコトナルニ付テハ日本政府ニ於

シテ之カ提供ヲ難ンスル模様ナリシカ會議後ニ至リ本國

銀行団本部ニ對シ右提供方ヲ電稟セリ

右等他國側利權提供問題ノ成行如何

(丙)幣制改革

紐育會議ノ決議ニ依レハ幣制改革問題ノ現狀殊ニ上海ニ於ケル造幣局設立ノ件ニ付支那政府ニ質問ヲ試ムル事トナリ居レル処其後本件ニ関シ借款団ニ於テ取リタル措置竝支那幣制問題ニ對スル借款団ノ方針如何

九、塩稅剩餘差押問題

日本側銀行ノ塩稅剩餘差押問題ニ関シテハ華府會議ノ際英國全權「バルフォア」ヨリ我方ニ對シ相當強硬ナル覺書ヲ送付シ來レル行懸アリ本件ハ新借款団トハ直接ノ關係ナキカ如キモ英國側ニ於テハ之ヲ華府ニ於ケル九箇國會議ニ附議セムトスル底意ヲ有シタルノ事實ニ顧ミ或ハ今次倫敦ニ於ケル借款団會議ノ議題ニ供セラルルコトナキヲ保セス旁々右ニ関シ的確ナル説明資料ヲ用意スルノ必要ナシトセス

七 五月十一日

島正金銀行借款課長ヨリ
木村亞細亞局第一課長宛

对中国新借款団倫敦會議議題ニ関スル倫敦支

一 对中国新借款団ニ関スル件 七

一四

テ右加入ニ賛同ヲ表シ其ノ旨日本銀行団ニ通達セラレムコトヲ希望スル旨本國政府ノ訓令ニ基キ申出テタルニ付右ニ對スル回答振ニ付他關係國政府トモ大体打合セラズ遂ケタル末同年十二月七日付公文ヲ以テ帝國政府ハ日英米仏各銀行団ノ認容セル条件ノ下ニ白耳義銀行団ノ加入ヲ受諾ス尤モ右白耳義ノ要望ヲ承認スルニ當リ本來借款団ノ範圍ニ屬セシムルヲ至當トスヘキ各種權利義務ヲ提供シ又ハ之カ提供ヲ引受クルノ責ニ任スヘキコトハ既ニ白耳義銀行団ニ於テ了解セルコトト思考スル旨回答セリ

其ノ後白耳義団体ハ前記参加条件ヲ承諾シ且之等權利ヲ提供セルヤ否ヤ

(乙)各國ノ提供セル利權

一昨年十月借款団紐育會議ニ於テ各國ヨリ提供スヘキ利權ニ関シ

- (イ) 英國ハ「ボーリング」商會所有ノモノ即チ沙漠、雲南大理兩鐵道ニ関スル利權ヲモ極力提供方ヲ言明シ
- (ロ) 米國ハ「シームス、ケリー」會社所有利權全部ノ提供ヲ言明シ
- (ハ) 仏國ハ中法實業銀行所有利權ノ實價值ナキヲ理由ト

店ヨリノ電報寄送附ノ件

第十一ノ三八号 大正十一年五月十一日

橫濱正金銀行

頭取席借款課長 島 芳藏(印)

外務省亞細亞局

第一課長 木村 銳市殿

拜啓

新借款団倫敦委員會議題ノ件

本件ニ関シ弊行倫敦支店ヨリ去九日附ヲ以テ別紙寫ノ通り電報致越候ニ付茲許供貴覽候

敬具

(別紙)

五月九日在倫敦正金支店發正金本店宛電報寫
对中国新借款団倫敦會議議題ニ関スル件

第四七号

五月十五日開催 Council 議題左ノ通本日通知アリ尚此外案件提出希望アラバ至急差出方申越アリ就テハ議題ニ對スル心得並ビニ提出案件アラバ五月十五日ノ間ニ合フ様至急電訓ヲ乞フ貴方電信第二〇四号大使館宛電信未着

Agenda

- No. I. General policy.
- No. II. Composition of the Consortium.
 - A. Belgian Group.
 - B. Italian Group.
- No. III. Land policy.
- No. IV. Railways.

- A. German issued bonds of the Hukwang and Tientsin Pukow Railway Loans.
- B. Option not specifically pooled under the minutes of 13th Oct. year 1920.
- C. Unification.
- D. Open tender.
- No. V. Land taxes.
- No. VI. Miscellaneous matters.

ハ 五月十二日 在英國德川臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

对中国借款団倫敦會議ノ議題ニ関シ大久保代
表ト英國代表アヂストノ會談報告ノ件

第二九〇号 (五月十三日接受)

貴電第一八一号ニ関シ(同電正金往電第四七号ト行達ニ接

様打合せ置キタリ

九 五月十二日 内田外務大臣ヨリ
在英國德川臨時代理大使宛(電報)

正金倫敦支店入手ノ对中国借款団倫敦會議
題ノ各項ニ付心得方大久保代表ニ傳達方訓令
ノ件

第一八四号

往電第一八一号ニ関シ

其ノ後貴地正金ヨリ借款団「カウンシル」議題当地正金ヘ
電報アリタルニ付其ノ各項ニ付左ノ通心得方大久保ヘ伝ヘ
ラレタシ

議題第一

往電第一八一号一及二参照アリタシ尚他国側ニ於テ借款団
ノ活動開始ヲ焦慮シ居ル向モアルヤニ見受ケラルル処右ハ
現下ノ支那時局ニモ鑑ミ困難ナルノミナラス斯ル態度ヲ示
スハ支那目下ノ混乱セル政局ニ顧ミ大局上不利ニシテ支那
側ヨリ進ンテ借款団ノ援助ヲ請ヒ来ルノ時機ハ早晚到来ス
ヘキヲ以テ姑ク隱忍自重スルヲ得策ト思考スルニ付適宜右
趣旨ヲ表明アリタシ

到)五月十一日大久保「アヂス」ニ面会シタルニ右正金往
電所載議題中(㉔)ハ支那ノ現状ニモ顧ミ政治借款ニ応ズルコ
トハ面白カラザルコト(㉕)(b)紐育會議ニテ提供セラレザリ
シ利権ハ關係者ヨリ自發的ニ提供シ来ラザル限り借款団ニ
於テ進ンデ之ヲ強フルニ便ナラズトノ趣旨ヲ認ムルコト(㉖)
ハ地租ハ将来ハ兎ニ角差当リノ借款ニ對シテハ担保トナス
ノ意志無キコト(㉗)ハ列記以外各国ヨリ提出アルベキ議題ノ
意ナリトノコトナリシ由

尚「アヂス」ハ議決ノ要点ハ覺書トシ或ル時期ニ於テ借款
団ヨリ公表スルモ可ナル可キ旨申居リタル趣ナリ依テ右ノ
如キ公表ヲ借款団ニテ為スノ当否ハ暫ク措キ議題自体ニ関
シ(㉘)(b)ニ對シテハ理論上ヨリセバ提供ヲ強制シ得ザル權利
モアルベキカナレドモ借款団本来ノ趣旨ニ顧ミ此際斯ル消
極的議決ヲ為ス必要アルヲ認メザル旨及(c)ニ對シテハ紐育
會議我方代表心得方ニ関スル訓令中鐵道國際管理ニ関スル
点及華盛頓ニ於ケル鐵道統一ニ関スル決議ノ趣旨ヲ体シ技
術上ノ統一ヲ計ル趣旨ニテ研究ヲ重ヌルハ結構ナルベキモ
國際管理ノ程度ニ進ムニハ尚篤ト考慮ヲ費スノ要アルベキ
旨又他ハ貴電ノ趣旨ニ依リ大久保ニ於テ然ル可ク言明スル

議題第二

(A) 白耳義団加入問題ニ付テハ紐育會議ノ決議ニ基キ其ノ
後白耳義政府ヨリ帝國政府ノ承認ヲ求メ来リ帝國政府ハ
大正九年十二月七日附ヲ以テ在本邦白耳義大使ニ對シ四
國銀行団ノ認容セル条件ノ下ニ白耳義団ノ加入ヲ受諾セ
リ尤モ本来借款団ノ範圍ニ屬セシムルヲ至当トスヘキ各
種權利義務ヲ提供シ又ハ之ヲ提供ヲ引受クルノ責ニ任ス
ヘキコトハ既ニ白耳義団ニ於テ了解スルコトト思考スル
旨回答セル行懸アルニ付叙上ノ趣旨ヲ含ミ応酬アリタシ

(B) 伊國団体ノ加入問題ニ付テハ往電第一八一号三参照

議題第三

Land policy ノ意味了解シ兼ヌルニ付何分御回示アリタシ

議題第四

(A) 湖北鐵道借款獨逸側持分問題ハ我方ニテハ「イニシア
チーブ」ヲ執ルコトナク寧ロ大勢ニ順応セラレタシ

(B) ハ往電第一八一号四ノ問題ヲ意味スルモノト推察セラ
ルルニ付右ニ抛リ御措置アリタシ

(C) 鐵道統一問題ハ華府會議決議ノ趣旨ニ抛ルノ外ナカル
ヘシ但シ何等具体的問題ノ上程ヲ見タル際ハ意見表示前

一 对中国新借款团ニ関スル件 一〇一一二

請訓アリタシ

(D) 材料供給問題ニ付テハ支那鉄道ノ最モ経済的ナル建設ヲ可能ナラシムル為我方ニ於テハ open tender ヲ認ムルニ異存ナシ

議題第五

我方ニ於テハ地租ハ現状ノ儘ニテハ借款ノ担保トスルノ価値ナシト認ムルモ将来担保トナシ得ルヤ否ヤノ点ニ関シ考究ヲ遂クルコトニハ異存ナシ

議題第六

往電第一八一号五、六、七参照

往電第一八一号ト共ニ在仏米大使ヘ転電アリ度シ

一〇 五月十三日

在英国徳川臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

对中国借款团倫敦會議議題第三ニ関スル件

第二九五号

貴電第一八四号ニ関シ

議題第三ハ loan policy ノ意味往電第二九〇号「アヂス」ノ談ニテ御承知アリタシ

一八

一一 五月十五日

内田外務大臣ヨリ
在英国徳川臨時代理大使宛(電報)

对中国借款团倫敦會議議題第四D材料供給ニ関スル注意事項訓令ノ件

第一八七号

往電第一八四号ニ関シ議題第四D材料供給ニ関シ Open Tender ニ付テハ同電ヲ以テ申進シタル通ナルモ各国産業界異常ナル現下ノ情況ニ於テ今日直ニ之ヲ実行スルコトハ或ハ困難ナル可シト認メラルルニ付今後具体的問題ノ起リタル場合ニハ其ノ都度決定スルコトニ協定シ置カレタシ

一二 五月十六日

在英国徳川臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

对中国借款团倫敦會議報告ノ件

第三〇三号

(五月十七日接受)

貴電第一八四号ニ関シ借款团「カウンスル」五月十五日開會議長 Addis elli 議案ヲ配付シ議了各項ハ Resolution トセズシテ Report トスルコト及右ハ対借款团各方面誤解除去ノ為各団幹部ノ承認有リ次第全部公表スルコトヲ決定議事ニ入り結局別電第三〇四号ノ通議了十六日再開各代表署名ヲ了セリ(別電ノ要点不取敢秘密トシテ北京借款团ニ電

報セリ)別電各項中説明ヲ要スル点左ノ通

一、議題四(b)ハ別電第三〇五号ノ原案ニ対シ大久保ヨリ往電第二九〇号記載ノ趣旨ヲ述ベタルニ対シ「アヂス」ハ

右ハ京奉、滬寧兩鉄道ニモ關係アリ全体ノ趣旨ハ決シテ pool セズトノ意ヲ表ハサムトスルニ非ズ唯「プール」スベキモノハ紐育會議ノ列挙ニ尽キ居リ夫レ以外ノモノハ

Grace トシテ各国ヨリ提供セザル限り本項ノ如ク解釈スル外無シト謂ヒ Pauling ノ如キモノハ如何トノ大久保ノ質問ニ対シ「アヂス」ハ右ノ如キハ全ク別問題ニテ此ノ種

利権「プール」ニ最善ノ努力ヲ為スコトハ巴里會議議事録ニモ明記シ有リト謂ヒ Lamont ノ提議ニ依リ別電第三〇四号ノ通修正大久保ハ貴電第一八一号ニ從ヒ本部ニ請訓ヲ

提唱シタルモ各委員何レモ「カウンスル」ノ性質上借款团自体ノ會議ト異リ各団体ヲ拘束スルモノニ非ザルコトハ客

年六月所定ノ「カウンスル」ノ constitution ニ依リテモ明ナルノミナラズ此ノ「レポート」ハ決議ニ非ズトテ請訓ニ

及バザルコトトセラレ度シト説キタルニ付大久保ハ遂ニ右ノ意味ニ於テ修正案ニ同意スベキ旨ヲ述ベ置キタリ

二、議題四C第二十五項乃至第二十八項ハ余リ詳細ニ亘ル

一 对中国新借款团ニ関スル件 一一

虞アルニ付第二十四項大体ノ方針文ニ止メテハ如何ト大久

保ヨリ提議シタルモ「アヂス」ハ右各項ハ第二十四項末段ノ reasons ヲ解説シタル迄ナルコト及前頭同様「カウンスル」ノ性質等ヲ述ベ大久保ノ憂フル如キ結果ニ立至ラザルコトヲ保障スト述ベ他ノ各代表者亦同意見ナリシニ付大久保ハ自説ヲ撤回セリ

三、議題(c)ニ至リ大久保ヨリ貴電第一八一号(各利権ニ関スル質問ヲ為シタルニ Pauling ニ関シテハ進ンデ交渉スレバ却テ足許ヲ見ラルルヲ怖レ居リ愈々發行ノ場合必ズ英國

団ニ相談ナキヲ得ズト信ズルニ付交渉ヲ差控ヘ居ル旨中法銀行ニ関シテハ其整理諸案未ダ一モ成功シ居ラズ利権譲受

ニ関シテハ予想シ難キモ一面此等利権ノ實在ニモ疑問アル旨又「シームス、カレー」ニ関シテハ從來ノ經費ヲ代償セ

バ何時ニテモ譲受ケ得ベキモ此際代償ヲ支払ヒテ迄引継グコト利益ト思ハレザル為其儘トナリ居リ愈々發行ノ場合必ズ米國団ノ助力ニ俟タザルベカラザルヲ信ズル旨夫々關係

代表者ニ於テ言明セリ大久保ハ貴電山東延長線ニ関スル陳述ヲ為セリ

一九

急電訓ヲ請フ

全文閣下及仏米支ニ郵送ス

註1 省略 後掲五月二十二日在英国徳川臨時代理大使ヨリ内

田外相宛機密公第二六号附属書ニ「レポート」参照

2 省略 同右附属書一ノ會議議事要領中アデイス提出原案

英文参照

~~~~~

一三 五月二十二日 在英国徳川臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛

对中国借款团倫敦會議ニ関スル書類送付ノ件

附属書 五月十八日附大久保本邦団代表ヨリ在英徳川臨

時代理大使宛書信

右會議ニ関スル書類送附ノ件

機密公第二六号

(六月二十七日接受)

大正十一年五月二十二日

在英

臨時代理大使 徳川家正(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

(件名)

支那借款团「カウンシル」ニ関スル件

本件ニ関シ左記書類及送附候也

記 号 書類要旨

甲 号 本邦代表者大久保正金支配人報告書

乙 号 會議作製ノ「レポート」

丙 号 會議々事録

別紙送附先

仏

米

支

(附属書)

五月十八日附大久保本邦団代表ヨリ在英徳川臨時代理大使宛  
書信

对中国借款团倫敦會議議事要領並報告書及議事録送附ノ件

大正十一年五月十八日

大久保 利賢

在英 帝国大使館

徳川代理大使殿

拜啓過般開催ノ Consortium Council ニ日本団代表トシ  
テ出席致候ニ付テハ右會議ノ議事要領一部並ニ report 及  
minutes 各五部茲許同封相送致候ニ付御查收被下度候

敬具

(別紙一)

甲 号

第一回 Consortium Council 議事要領

(於倫敦大正十一年五月十五日、十六日両日)

第一回會議

大正十一年五月十五日午前十一時香上銀行ニ於テコンソ  
シム、カウンシル第一回會議開會

Sir Charles Addis, R. Thion de la Chaume, Thomas  
W. Lamont, Toshikata Okubo 出席ス

Addis 議長席ニ就キ Opening Remarks トシテ最近同人  
極東訪問ノ結果得タル感想ヲ述ベ其所感ニ於テ「ラモン  
ト」ト一致スルモノアル旨ヲ述ベ殊ニ次ノ三点ヲ指摘セリ  
一、支那現時ノ political disorder ノ現状ニ於テハ行政経  
済両借款共差当リ実行困難ヲ覚ユルモ然モ經濟借款ニ就  
テハ歩ヲ進メ得ルノ余地アルモノト思ハル

二、借款团ノ實際目的ニ関シ誤解アルコト

三、借款团ハ此際特ニ自重シテ隱忍努力ヲ繼續スルノ必要  
アルコト

右ニ対シ「ラモント」大体同意見ノ陳述ヲナシ仏、日代表  
共ニ借款团ノ協調の精神ニヨリ同一歩調ニ出ヅルコト可然

一 对中国新借款团ニ関スル件 一三

旨ヲ述べ議事ニ入り Addis 草案配布セラル

議長ハ先ヅ Council ニヨリ議達シタル諸項ハ resolution  
トセズシテ report トスベキコトヲ提議シ一同賛成ス

Report ヲ公表スルノ問題ニ関シ仏代表ハ公表前政府及団  
体本部ニ照会シ承認ヲ得ルノ必要アル旨ヲ述ベタルニ  
Addis ハ「カウンシル」ノ目的ガ機宜ニ適スル Statement  
ヲナシ借款团ノ一般方針ヲ適當ナル時機ニ発表スルコトヲ  
目的トスル処之ヲ政府ニ refer シテ徒ラニ数ヶ月ノ日子ヲ  
経過スルコトハ其目的ノ大半ヲ失フモノナルニ付政府ニ  
refer スルコトハ後日ニシ度キ旨ヲ述ベ「ラモント」モ団  
体本部丈ニ refer セバ宜シカラントノ意見ニテ日本代表者  
ハ発表前団体本部ノ approval ヲ経ベキ必要アリト述べ結  
局其様ニ決定セリ

次ニ討議ニ入り agenda 各項ニツキ Addis 草案ニヨリ逐  
条審議ヲナス

議題第一

general policy 多少字句ノ修正アリタルモ結局大体ノ意味  
ニ於テ変更ナク可決

議題第二

借款团 composition ノ問題ニ入り

白耳義団加入ノ問題ハ自国内ニ於ケル団体組織ノ關係上ヨリ進行停滯ノ模様アルベク信ゼラル、旨 Chaume ヨリ陳述アリタリ

伊太利団体加入問題ニ関シ Addis ハ最近迄ノ進捗ノ模様ヲ語リ pool スベキ利権ヲ申出ツベキ旨ノ当方通知ニ対シ未ダ何等回答ニ接セザルノ状態ニアル旨ヲ述ベ「ラモント」ハ伊国団体員中ニハ最近業績不良ニナリタルモノモアルヤニ承知スル旨ヲ述ベ Addis ハ伊国ノ財政状態及為替關係等ヨリシテ余リ歡迎の態度ヲ示サズ

### 議題第三

Loan policy 多少用語ノ修正ヲナシタル後通過

### 議題第四

鐵道

A' Hukang 問題通過

B' options not specifically pooled

ニ関スル Addis 提出原案左ノ如シ

Options not contained in the list of those offered for pooling on October 13th, 1920, and particu-

larly options arising out of old agreement of Railways completed, are considered to be technically outside of the scope of Consortium, but it is hoped that they may be offered by the member groups as an act of grace for participation in pooling terms.

大久保ハ発言ヲ求メ本項ノ如キ問題ヲ本「カウンシル」ノ討議ニ上スベキ必要アルヤ否ヤニツキ疑ナキ能ハズ寧ロ後日實際問題發生ノ折ニ讓ルコト可然旨ヲ述ベタルニ Addis ハ此条項ハ京奉滬寧兩鐵道ニモ關係アルモノニシテ其全体ノ趣旨ニ於テ決シテ pool セザルベキノ意味ヲ指示スルモノニ非ズト述ベタルニ付大久保ハ重ネテ借款団本来ノ協調的精神ヨリ稽フルモ特ニ此場合ニ於テ outside of scope ナルコトノ記述ヲナスコトガ至当ナルヤ否ヤ判斷ニ苦シムノミナラズ一ノ利権が果シテ technically ニ outside ト言ヒ得ルヤ如何ニ関シテハ更ニ研究ヲ要スベキモノアル旨述ベタルニ Addis ハ意外ナル面持ニテ当然 pool スベキモノハ紐育會議ノ list ニテ Exhaust シ居ルモノニシテ其以外ノモノハ grace トシテ提供アレバ格別ナルモノ之ヲ強行スルコトハ不可能ナリ日本ノ言ハルル所ハ果シテ如何ナル

particular case ヲ意味スルヤト述ベタルニ付試ニ Pauling ノ如キモノハ如何ト問ヒタルニ右ハ毫モ本項ト抵触スルコトナシ此種ノ利権ヲ pool スベク最善ヲ尽スベキコトハ既定ノ方針ニシテ巴里會議ノ minutes ニモ明カニ定メアルコトヲ指摘シタリ Lamont ハ借款団ノ協調的精神ヲ強メタル意味ノ語ヲ追加シテ

nevertheless in accordance with the general principle of co-operation inherent in the Consortium.

ナル語ヲ挿入セバ日本ノ意向ニモ接近シ得ベキ旨ヲ述ベ午後ノ討議ニ讓ルベキ旨ヲ提議シ次ノ議題ニ入ル

### C' Unification.

第二十四条乃至第二十九条ニ関シ一読ノ上字句ノ訂正等アリタル後大久保ハ二十五条乃至二十八条ハ detail ニ入り過ギタル如ク感ゼラル寧ロ第二十四条ノ大体方針ヲ記述スルニ止ムルヲ可トスベキ旨述ベタルニ Addis ハ所説ノ各項ノ内容ニ付何等異議アルヤヲ問ヒタルニ付左ニ非ラズ乍然鐵道ヲ支那主權ノ下ニ統一スルコトノ主義ハ最近華府會議ニ於テモ声明セラレタル所ニシテ毫モ異存ナキモ此場合ニ余リニ詳細ナル記述ヲ為サザル方可ナリト信ズル旨ヲ

述ベタルニ Addis ハ二十五条乃至二十八条ハ第二十四条ノ末段ノ reasons ヲ解説シタル迄ノモノニシテ決シテ借款団カ進ンデ如此コトヲ為サントスル提議的ノ意味アルニ非ズ且又二十九条ニモ明記セル如ク支那輿論ノ賛成アル前提ナクシテハ借款団ハ何等決定の進捗ヲナサズ本項ハ単ニ団体ガ鐵道統一ヲ其終局ノ目標トセルコトヲ指示セルニ止マル繰返シ附言シ度キハ本會議ハ決シテ proposal ヲ為サントスルニ非ズ一ノ statement ヲ得ントスルモノニ過ギズ本項ハ何等確定的ノモノニ非ザルベキ旨ヲ受合フベキ旨ヲ述ベタリ依テ會議ノ空氣ニ鑑ミ米、仏ノ態度ヲ商量シ大久保ハ自説ヲ撤回セリ

### D' open tender

### 議題第五 land tax

何レモ別ニ大シタル議論ナク通過

昼食ノ為休憩午後三時再会ノコトトス

午後三時再会修正シタル草案ニ依リ各項ノ審議ヲ了リ日本ノ指摘シタル pool ニ関スル第二十三条ニ関シ「ラモント」ノ修正案提出アリタリ元來本件ニ関シテハ電訓ニ鑑ムルモ日本ノ執ルベキ見解必ズシモ明確ナラズ且休憩中「ラ

モント」ニ対シ本件ニ関係アルベキ既に完成セラレタル事業契約ニ附帯シタル option 問題ニツキ其意見ヲ聞キタルニ同氏モ無論範圍外ナリト解スル旨ヲ述ベタル関係モアリ旁々余リニ本件ニ執着スルコトノ反テ日本ニ執リ機微ナル關係ニ立到ルナキヤノ点モ慮レラレタルヲ以テ修正案ニ対シ大久保ハ最後ノ案トシテ要スルニ本問題ニ付テハ日本団本部ノ見解如何ナルベキヤニ関シ自分ニ於テ予測スルニ困難ナリ且本朝始メテ提示セラレタル原案ヲ見タルノミナル事情ノ下ニ在リテ即決ニ躊躇セザルヲ得ズ故ニ本部ニrefer シタル上ニテ何分ノ申出ヲナスベキ旨述ベタルニ「ラモント」ハ Council ハ決シテ Consortium meeting ト同一視スベキモノニ非ズ全ク free talk ニヨリ此席限りニテ論議ヲ交ユルヲ目的トシ一々本部ノ訓令ニ依リ行動スルガ如キハ其趣旨ニ叶ハズ此点ハ Council ノ Constitution ニモ明カナル旨ヲ述ベタルニ Addis モ之ニ賛成シ且全体ノreport ハ本部ノ Approval ヲ得ルコトナリ居ル以上更ニ各項ニツキ一々本部ニ refer スルコトノ面白カラザルヲ力説シ仏モ之ニ同意シタリ結局大久保ハ右ノ意味ノ下ニ修正案ヲ認ムル旨ヲ述ブルニ至レリ

右ニテ討議ヲ了リ次回開會ヲ十月トスル旨ヲ打合せ場所ニ関シテハ Addis ヨリ東京紐育等ノ suggestion モアリタル後巴里又ハ倫敦トスルコトニ一致シ散會セリ  
明朝午前十一時再會 report ニ sign スベキコトニ打合せタリ

### 第二回會議事要領

五月十六日午前十一時第二回開會場所出席人員昨日ノ通り昨日議了ノ report ヲ通読ノ後 Addis ノ suggestion ニヨリ第十八条中 interference 〆 intervention ト修正シ署名ヲ了ス  
議長ハ公表ニ関シ支那目下ノ状態ニ鑑ミ可成迅速ナル方宜シキ様考ヘラルルニ付本部ノ承認ハ可成至急受ケ度様提議シ大久保ハ電報ニテ之ヲ問合ハス旨ヲ約セリ  
尚北京団体ハ極秘トシテ予メ報告ノ大体ヲ架電シ各団体ノ承認アリタル時ハ直ニ公表シ得ル様準備シ度旨議長提議ニ対シ「ラモント」ハ report 中主要ナル部分即 General policy, loan policy, unification, land tax 等ニ関スル概要ヲ極秘トシテ電報スルコトニシテハ如何ト述ベ之ニ同意ス

### Miscellaneous matters

ニ関シ大久保ハ Pauling 中法実業 Siemens Carrey 利権 pool ニ関シ三団体ニ対シ其後ノ進捗ノ模様ヲ尋ネタルニ Addis ハ Pauling ニ就テハ pool セシムベキ様最善ヲ尽スベキコトハ紐育會議ニ於テ自分ノ言明セル所ナルガ当方ヨリ進ンデ交渉ヲ進ムルコトハ却テ先方ニ Advantage ヲ与フルノ虞アルニ付其後交渉ヲ進メ居ラズ乍然愈發行ノ場合ニハ必ズ英國団ニ相談ナキヲ得ザルヲ信ズル旨申述ベタリ中法実業ニ関シテハ同行救済ノ諸案ハ未ダ一モ成功シ居ラズ利権譲受ニ関シテモ從テ予想シ難キモ自分ノ考ニテハ此等利権ハ果シテ価値アルモノナルヤ否ヤ殊ニ欽渝ノ如キハ人口稀薄ナル地方ニ属シ余リ好望ト思ハレズト述ベ Lamont ハカレー契約ニ関シ代償ヲ支払フニ於テハ何時ニテモ譲受得ラルルモ今直チニ右ヲ支払ヒテ引継グコトハ利益ト思ハレザルニ付其儘トナリ居ル旨ヲ述ベ且實際發行ノ場合ニハ米國団ノ力ニ待タザレバ到底不可能ナルコトヲ述ベタリ  
大久保ハ紐育會議ニ於テ日本ガ technical difficulties ヲ存シタル山東延長線ニ就テハ右困難ノ remove セラレタル旨ヲ述ベタリ

新聞ニ簡單ナル記事掲載方ヲ取極メタリ

「ラモント」議長ニ対シ謝辞ヲ述ベ閉會ス

(別紙二)

乙 号

对中国借款団倫敦會議作製ノ報告書

### THE CHINA CONSORTIUM.

#### REPORT

of the

#### CONSORTIUM COUNCIL,

adopted at a meeting held in the office of  
THE HONGKONG & SHANGHAI BANKING  
CORPORATION.

PRESENT. LONDON, May 15, 1922.

SIR CHARLES ADDIS, K. C. M. G.

REPRESENTING THE BRITISH GROUP

MONSIEUR R. THON DE LA CHAUME

REPRESENTING THE FRENCH GROUP

MR. THOMAS W. LAMONT

REPRESENTING THE AMERICAN GROUP

MR. T. OKUBO

REPRESENTING THE JAPANESE GROUP

## IN ATTENDANCE.

MR. W. E. LEVESON  
MONSIEUR R. SAINT PIERRE  
MR. JEREMIAH SMITH  
MR. C. F. WHIGHAM

### I. GENERAL POLICY.

1. The policy of the Consortium, namely the substitution of international co-operation for international competition in the economic and financial affairs of China, has now been definitely affirmed and endorsed in a larger sense by China and the Powers in the Treaty signed at Washington on February 6, 1922.
2. The Treaty is in effect an undertaking by the Powers to respect the sovereign rights of China, to preserve her territorial integrity and to provide her with a free and unembarrassed opportunity to develop her economic resources and maintain for herself an effective and stable government.
3. The Consortium is an appropriate instrument for giving effect to this policy. It is not designed as a permanent organisation, but rather as a temporary bridge by which China may be assisted to pass in com-

parative safety through the difficult period of transition from an unsettled to a settled state of government.

4. What has already been accomplished appears to justify the belief that the Consortium has been constructed on sound lines, and may reasonably be expected to fulfil the purpose for which it was designed with due regard to the natural susceptibilities of the Chinese on the one hand and the security of the foreign investor on the other.

5. It is popularly supposed, and occasionally asserted, that the main object of the financial Groups composing the Consortium is to harvest undue profits reaped from loans forced upon China under the protection of their respective governments. This is not the case. On the contrary it has been by their consistently refraining from lending that their principal success has been achieved in encouraging the utilisation of native savings before recourse is had to foreign capital, and in arresting the profligate expenditure which was heading the country straight for bankruptcy. It is not too much to say that the Consortium has helped to stim-

ulate and foster a sane and independent public opinion in China, and, by putting a stop to the menace of financial penetration arising from indiscriminate and unproductive foreign borrowings, is helping to conserve the integrity of the country.

6. Much still remains to be done, and until their work has been accomplished the several Groups of the Consortium are convinced that they would not be justified in having regard merely to their own convenience by resuming their freedom of independent action. They are reinforced in this conviction by the consideration that the Consortium appears to form the chief barrier between China and the policy of Spheres of Interest which prevailed during the last decade of the XIXth century. It will be remembered that it was during that period, known as the "Battle of the Concessions," that definite claims to exercise preferential rights over specific geographical areas of China were advanced by different Powers. If these claims had been maintained the disintegration of China must have followed. Any backward step towards the resumption of a similar policy might well be expected to produce similar results.

7. The pressure upon modern nations to discover and develop outlets for their trade is increasing, and China presents to-day by far the largest undeveloped field for commercial expansion. If the restraint at present exercised by the co-operative action of the Consortium is removed, the resort to the pressure of individual agents in competition with each other would appear to be inevitable. From that it would be but a step to the intervention of foreign governments in order to protect the vested interests acquired by their nationals in different parts of China, and Spheres of Interest, with consequences disastrous to China, would once more be established.

8. It is more in the interests of China for the Powers to deal with her as a whole rather than separately, in co-operation rather than in competition with one another. It is the aim of the Consortium to assist China in the building up of her credit until some day like other nations she can borrow for her requirements on the strength of her national credit, without the necessity of recourse to specific security or supervision of expenditure. When that day comes it will be

time enough to talk of disbanding the Consortium. Until then the Consortium must remain intact and, with the approval and support of the Governments, continue to perform with patience the functions assigned to it.

## II. COMPOSITION OF THE CONSORTIUM.

### (a) Belgian Group.

9. In response to their request the conditions of membership in the new Consortium, namely (a) that each Group in the new Consortium shall be a national unit, (b) that no member of any Group shall within the scope of the Consortium represent directly or indirectly any other national interest, (c) that the Group agree to surrender all their existing agreements and options and (d) that they are assured of the complete support of their own Government, were communicated to Mr. Franconi on behalf of the Belgian Group in December, 1920.

10. No official application for membership in the Consortium has yet been received, and it is accordingly assumed that the Belgian Group find themselves unable as yet to accept the conditions laid down.

tion in China, in itself a potent means of unification, should wait upon the solution of her administrative problem.

14. It is recognised that an essential part of any scheme for the financial reorganisation of China is the consolidation of the floating debt.

15. A certain portion of the Chinese public appears to be under the delusion that in some way or other the object of the Consortium is to obtain control of China's finances and railways. If such a delusion really exists, it can only be due to a mistaken reading of every public announcement which has been made on the part of the Groups.

16. It has repeatedly been stated that interference with the domestic politics of China has no part in the programme of the Consortium, that the reorganisation of China's finances must come from China herself, and that the role of the Consortium is limited to an endeavour to assist the Chinese Authorities, if requested to do so, in re-establishing economic and financial equilibrium.

17. It would be futile to ask the foreign in-

### (b) Italian Group.

11. An application by the Italian Group for admission into the Consortium was followed by a statement that the necessary formalities have been fulfilled, and that a list of the agreements and options to be surrendered by the Group will be transmitted at an early date.

## III. LOAN POLICY.

12. It is the settled policy of the Consortium to refrain from interference in the internal affairs of China. The present political upheaval in that country precludes the immediate hope of giving practical effect to any Consortium proposals for an administrative loan. Conditions, however, change so rapidly that the Groups must always stand prepared for action in anticipation of the time when China shall have again attained to such degree of political peace and security as to afford a reasonable prospect of a stable government.

13. Industrial Loans, in which railway loans are included, are in a different category. Provided adequate security can be obtained there seems to be no reason why the further development of railway communica-

vestor, to whom the Consortium stands in the relation of quasi-trustee, to subscribe to a Chinese loan until he is satisfied that its proceeds will be properly expended and his capital duly returned to him at maturity. It is indisputable that this necessitates some measure of supervision, but no more control than the minimum actually required to provide the adequate degree of security without which it would be impossible to issue a foreign loan.

18. It is the policy of the Consortium to assist in building up the general credit of China on such secure foundations that all outside intervention may be gradually eliminated and the entire control of loan service and expenditure may finally pass into the hands of China herself.

## IV. RAILWAYS.

(a) German-issued bonds of the Hukwang and Tientsin-Pukow Railway Loans.

19. In the general interests of Chinese Railway finance it is imperative that the Chinese Government should announce without further delay the conclusion which they have reached with the German Government

with regard to outstanding German-issued Railway Bonds.

20. The successful flotation of any further railway loan in foreign markets will be endangered unless the whole of the outstanding bonds of the Hukwang Railways Loan are recognised.

21. The Chinese Government should also state their intentions with regard to the unissued German portion of the Tientsin-Pukow Supplementary Loan amounting to £1,134,000, and the advance by the Deutsch-Asiatische Bank to this railway of £900,000.

22. This should be followed by a statement of the number of bonds of both of the above-mentioned Railway Loans paid by Germany to China under the Treaty of May, 1921.

(b) Options not specifically pooled.

23. Referring to Article 2 of the minutes of the Paris Conference of May 11, 1919, although it is recognised that options arising out of agreements in possession of the groups at the time of the New York Conference, which for any reason were not included in the list of those offered for pooling on October 13,

1920, and particularly such options as arise out of old contracts for completed railways, are technically outside the scope of the Consortium, nevertheless, in accordance with the general principles of co-operation inherent in the Consortium, it is hoped that they may be offered by the member groups as an act of grace for participation on pooling terms.

(c) Unification.

24. The unification of Chinese Railways under the Chinese Board of Communications having been recommended by the Consortium as the policy China ought to pursue, it may be expedient to recapitulate some of the reasons which have led to this view.

25. Central financial and engineering organisation would facilitate a reduction of staff at every railway head office, simplify the keeping of railway accounts, and generally tend to economy.

26. Control of personnel and material by a Central Board should lead to uniformity and standardisation of rolling stock and equipment and the establishment of a properly trained and efficient railway service.

27. Pooling of railway earnings would tend to harmonise the market quotations for railway bonds, and might materially facilitate the making of new issues.

28. Interference with railway funds by parties having special interests in any particular line, or by local authorities in the lines feeding particular districts, would be estopped by unification of the railway system.

29. It is, however, clearly recognised that public opinion in China must have pronounced in favour of the change before any definite advance is made. Meanwhile unification should be kept steadily in view as the ultimate end to be achieved, and care taken to avoid any steps likely to delay its realisation or which might tend to perpetuate the present separatist uneconomical system.

(d) Open Tenders.

30. It is an essential part of the Consortium programme to ensure for China the full advantage of world competitive prices by stipulating that all goods on which loan funds are expended shall be supplied by tender open to the nationals of any country, whether

a member of the Consortium or not, and with no advantage to the Consortium Groups which supply the money other than that they shall have a preference upon equally favorable terms. This policy should be a sufficient answer to the charge that the action of the Consortium is unduly monopolistic in its tendencies.

V. LAND TAX.

31. There appears to be some misunderstanding in China with regard to the suggestion that the Land Tax might at some future date be utilised as a source of security for a supplementary administrative loan should the other revenues of the country prove insufficient for that purpose, or be already fully pledged. That the collection of Land Tax should be remodelled on the lines of that of the Maritime Customs, i.e., placed under foreign supervision, formed no part of the suggestion, and was not even discussed. Neither the application of foreign control to the collection of Land Tax, nor specific hypothecation of that security, came within the scope of the conclusions reached at the Consortium Conference at New York in October, 1920. The project of a loan secured on the Land Tax

was not then and is not now under consideration by the Consortium.

C. S. ADDIS.  
R. TH. DE LA CHAUME.  
THOMAS W. LAMONT.  
T. OKUBO.

(英 譯文)  
記 号

支那國銀行協定書ニ關スル事

### THE CHINA CONSORTIUM.

MINUTES of a meeting of the CONSORTIUM COUNCIL held at the Office of the Hongkong and Shanghai Banking Corporation, London, on May 15, 1922.

PRESENT.

SIR CHARLES ADDIS, K.C.M.G.  
REPRESENTING THE BRITISH  
GROUP  
MONSIEUR R. THON DE LA CHAUME  
REPRESENTING THE FRENCH  
GROUP

plained the circumstances under which there has been no distribution of the accumulated purchasing commission on this Railway, and, on the part of the British Group, expressed their regret.

It was agreed by the British, French and American Delegates that the distribution shall now take place with arrears of interest at 3 per cent. per annum, \$2,000 being retained to defray audit expenses.

It was further decided to suggest the reduction of the Auditor's salary, referring the matter in the first place to the Peking Representatives for their observations.

### REORGANIZATION LOAN, RUSSIAN ISSUE.

With regard to the form of declaration imposed by the Chinese Government before payment of the coupons of this issue, the Chairman stated that the draft telegram to Peking suggesting a protest had not been despatched, for two reasons: (a) the French Group was of opinion that the telegram should be despatched not by the Consortium but by the Groups signatory of the Loan Agreement, (b) the Japanese Group stated that their Representative was already in communication

MR. THOMAS W. LAMONT  
REPRESENTING THE AMERICAN  
GROUP  
MR. T. OKUBO  
REPRESENTING THE JAPANESE  
GROUP

### IN ATTENDANCE.

MR. W. E. LEVESON  
MONSIEUR R. SAINT PIERRE  
MR. JEREMIAH SMITH  
MR. C. F. WIGHAM  
MR. R. TSURUTA  
MR. SUTTON

SIR CHARLES ADDIS in the Chair.

The Report of the Council, submitted in draft, was amended in detail, and adopted. The document was ordered to be prepared for signature and approval by the Groups previous to publication: copies also to be transmitted confidentially to the Representatives in Peking for their observations.

HUKUANG RAILWAYS. The Chairman ex-

with the Chinese Ministry of Finance on the subject. It was decided to await the result of the Japanese action.

LIANG SHIH-YI. The Chairman read a Memorandum of his conversation with Liang Shih-yi at Tientsin, on February 18, adding that he did so in compliance with his promise to Liang, but that circumstances which have occurred since that date have rendered further action in the matter unnecessary.

PEKING REPRESENTATIVES. The Chairman stated that he had informed Messrs. Hillier and Mayers of the date of this meeting, with leave to inform their colleagues, in order to afford an opportunity for the representation of any point suitable for discussion, but that no suggestion had been forthcoming.

### SPECIAL CONFERENCE REGARDING LIKIN.

The French Delegate referred to Article 9 of the Hukuang Railways Loan agreement in which the abolition of Likin was contemplated. It was decided to address a telegram to the Representatives, drawing attention to the clause and directing such necessary steps as will ensure the substitution of the specified substitute

security.

SHANTUNG RAILWAYS. The Japanese Representative stated that the technical difficulties in the way of pooling the agreements for these railways, to which allusion was made at the New York Conference, have now been removed.

It was resolved to convene the next meeting of the Council at London or Paris during the month of October next.

The meeting then adjourned.

C. S. ADDIS.

R. TH. DE LA CHAUME.

THOMAS W. LAMONT.

T. OKUBO.

一四 五月二十三日

内田外務大臣ヨリ  
在英国徳川臨時代理大使宛 (電報)

对中国借款団倫敦會議ノ報告書公表ニ関シ回  
訓ノ件

第一九四号 至急

貴電第三〇三号及第三二一号ニ関シ Report 公表方異存ナ  
ク当方ニテハ正金ヲシテ公表セシムル管尚公表ハ関係国同

時ニ行フコト致度キニ付予定日取御打合ノ上結果電報ア  
リタシ

註 徳川臨時代理大使宛第三二一号 (五月二十一日本省着) ヲ  
省略セルガ右ハ公表ノ可否ニ付至急回訓ヲ求メタル電報ナリ

一五 五月二十五日

内田外務大臣ヨリ  
在英国徳川臨時代理大使宛 (電報)

对中国借款団倫敦會議題 open tender =  
関シ訓令ノ件

第一九八号

貴電第三〇六号ニ関シ往電第一八七号ハ借款団「カウンス  
ル」ノ間ニ合ハサリシ趣ノ処右往電ノ趣旨ハ日本側ノ意向  
トシテ一応「カウンスル」会合ノ各代表者ノ承知ニ入レ置  
クコトト致度ニ付大久保ヨリ書面ヲ以テ右通報セシメ置カ  
ルル様致度尚右通報文写ハ郵送アリタシ

註 徳川臨時代理大使宛第三〇六号 (五月十七日日本省着) ヲ省  
略セルガ右ハ大臣ノ第一八七号ハ會議ニ間ニ合ハザリシニ依  
リ同電ノ趣旨ヲ會議ニ追加申入ルルコトヲ取止メタルコトヲ  
報告セルモノナリ

一六 五月二十五日

在英国林大使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

对中国借款団倫敦會議報告書公表ニ同意ハ報  
告書承認ヲ意味ストノ解釈ニ付請訓ノ件

第三二四号

(五月二十七日接受)

貴電第一九四号ニ関シ大久保ヨリ更ニ本件「アヂス」ニ対  
スル通告ハ単ナル公表ノ同意以上ニ右「カウンスル」ノ  
「リポート」カ日本財団ノ承認ヲ得タルカ故ニ公表ニ同意  
スルモノナル旨通知セサルヘカラサル趣ヲ以テ右様取計ヒ  
可然ヤ確メ方申出アリタリ就テハ右ノ点至急回電アリタシ

一七 五月三十一日

内田外務大臣ヨリ  
在英国林大使宛 (電報)

对中国借款団倫敦會議報告書公表ニ同意ハ之  
ガ承認ノ意味無キモノト解釈スル様訓令ノ件

第二二一号

貴電第三二四号ニ関シ「カウンスル」ノ「レポート」ハ大  
体ニ於テ同意ナルモ貴電第三〇三号ニ依レハ大久保ノ提議  
ニ対シ各委員ハ「カウンスル」ハ性質上各団体ヲ拘束スル  
モノニ非サルコト其ノ Constitution ニヨリテモ明カナリ  
トテ反対シタル趣ニシテ大久保モ斯ル了解ノ下ニ強テ提議

一 对中国新借款団ニ関スル件 一六 一七 一八

ヲ主張セサリシコトト思考セラルル処此際右「レポート」  
ヲ本国団体ニテ承認スルコトトセハ自ラ之カ拘束ヲ受クル  
コトトナリ「カウンスル」ハ借款団自体ノ會議ト差異ナキ  
ニ至ルヘン就テハ今回ノ「レポート」ハ単ニ「カウンス  
ル」ノ「レポート」トシテ公表スルニ止メ各団体ハ飽迄右  
「レポート」ニハ拘束セラレサルコトト為シ置キタキニ付  
其趣旨ヲ含ミ「アヂス」ニ通告方可然取計ハシメラレタシ  
右仏米ニ転電アリタシ

一八 六月六日

在英国林大使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

借款団倫敦會議報告書ガ各団体ヲ拘束セザル  
「ト及 open tender」ノ件ニ付大久保ヨリア  
ヂスニ申入ノ件

第三四二号

(六月八日接受)

貴電第二二一号ニ関シ御来示ノ趣旨ニ依リ貴電第一九八号  
ト併セ六月三日大久保ヨリ「アヂス」ニ申入レシメタル処  
六日先方ヨリ日本財団カ本件「レポート」ノ公表ヲ「アッ  
プルヴ」シタルコトヲ謝シ米仏兩國ヨリ同様ノ同意ヲ得  
次第公表日取ヲ通告ス可キ旨ヲ述べ該「レポート」ノ性質

及範圍ニ関スル我方解釈ニ全然同感ニシテ単ニ四代表者ノ見解ヲ明文トシ各財団ノ「インフォメーション」及「ガイダンス」トシテ作製シタルモノニ過キストシ Those groups in turn, while not called upon to signify formal approval nor asked to adopt Report in detail by giving their assent to making document public, do no more than intimate that its trend is not repugnant to programme and policy to which they are committed. ト附記シ「カウンシル」ノ権限ニ付其カ財団自体ニ対シ何等行為ヲ要求スル束縛力ヲ有スルモノノ如キ印象ヲ与フルニ於テ「カウンシル」設立ノ真価値タル列席代表者言動ノ自由ヲ阻害スルニ至ル可ク此ノ点ニ付誤解ナキヲ緊要トスト述ヘ最後ニ貴電第一九八号当方申入レノ次第ハ早速米仏財団ニ通告ス可キモ該報告ハ全ク一般政策ニ関スルモノニシテ個々ノ問題ニ適用スル場合ハ財団当事者ニ於テ慎重ノ論議ト考慮ヲ必要トスルコト勿論ナリト思考スル旨書面回答シ来レリ往復文書郵送ス

在米大使ヘ転電シ在仏大使ヘ郵報セリ

從ヒ当該個条ヲ引抜キタル残り丈ヲ公表スベキカ(脱)セザルベカラザル旨申来レリ  
右ニ関シ十九日大久保「アヂス」ニ面会意見ヲ尋ネタル処同人自身ハ前述ノ通一部公表ヲ喜バザルモ目下右ニ対スル米國側意向問合セ中ニテ兎ニ角其返事ヲ見ルコトトシタシト語レル趣ナリ  
就テハ結局ハ米國ノ回答来ラザレバ英國側ノ態度モ確定セザル次第ナルガ若シ其結果公表全部見合セノ提議アリタル場合ニハ大久保ヲシテ是ニ賛成セシメ然ルベキヤ予メ電訓ヲ乞フ關係書類郵送ス  
米ヘ転電シ仏ヘ郵送セリ

二〇 六月二十一日 在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

借款團倫敦會議報告書公表問題ニ付アヂス大  
久保ニ米國側ノ意向ヲ伝ヘ措置振協議ノ件

第三七二二号 (六月二十二日接受)

往電第三六六号ニ関シ二十日「アヂス」大久保ニ面会米國側モ亦英國同様一部公表ニハ同意シ兼ヌル意向ナル旨回答アリタル趣ヲ語リ就テハ此際徳川ニ対シ日米兩國トモ公表

一 对中国新借款團ニ関スル件 二〇 二一

一九 六月十九日 在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

借款團倫敦會議報告書ノ若干部分公表見合方  
仏國側希望ニ付アヂスヨリ大久保ニ協議ノ件

第三六六号 (六月二十一日接受)

往電第三四二二号ニ関シ「アヂス」ヨリ大久保宛書面ヲ以テ其後同人及仏國側代表者間往復文書ヲ添ヘ仏國側ニテハ本件「レポート」ハ全体トシテ賛成ナルモ借款團 Councilノ性質並借款團自体トノ關係ガ一般社会ニ知悉セラレ居ラズ從テ今回ノ公表ニ対シテモ世間ハ借款團ナルモノト誤解スルヤモ計ラレザルニ顧ミ若シ何所迄モ公表ヲ可ナリトスルナラバ「レポート」第二章全部(第九条乃至第一条)及第四章「c」「d」(第二四条乃至第三〇条)ハ公表ヲ見合セ即第一条ヨリ第八条迄、第一二条ヨリ第二三条迄及第三一条丈ヲ公表スルコトニハ同意スベキ意向ナル趣ナル旨ヲ述ベ「アヂス」自身トシテハ輓近英支兩國ニ於テ本借款團ニ対シ其性質独占のニシテ支那主權ト相容レズトノ理由ヲ以テ攻撃論ヲ為ス者アルニ鑑ミ公表ハ仏國申出通ノ個条ヲ削除スルコトハ得策ナラザルヤニ考ヘラルルモ Councilトシテハ此際全然公表ヲ見合スコトスルカ日、仏留保ニ

ニ賛成ナル今日仏國団モ亦全部公表ヲ賛成アリタキモ止ムヲ得ズンバ寧ロ公表全部ヲ見合セ度キ旨申入ルルコトト致シ度シトテ大久保ノ意見ヲ求メタルニ付大久保ハ前電ノ通既ニ本部ヘ問合セ済ニ付回電ヲ待チ度キ旨ヲ答ヘ「アヂス」モ亦之ヲ承諾シタル趣ナリ就テハ右ノ次第御含ミノ上何分ノ儀至急回電アリ度シ

在米大使ヘ転電シ在仏大使ヘ郵送セリ

二一 六月二十三日 内田外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛(電報)

对中国借款團倫敦會議報告書公表問題ニ付措  
置振訓令ノ件

第三七二七号

貴電第三六六号及第三七二二号ニ関シ本件「カウンシル」ノ開催ハ既ニ世人周知ノ事実ナルニ付右ニ関シ何等公表スル所ナキニ於テハ却テ無用ノ誤解ヲ招ク虞アルヘク且「レポート」ハ借款團ニ対スル從來ノ誤解ヲ一掃セシムル上ニモ幾分効果アルニ付貴電第三四二二号御来示ノ如キ趣旨ノ説明ヲ加ヘ全部公表スルコトトシ度シ就テハ仏國團ニ対シ貴電第三七二二号御来示ノ通申入ヲ為スコトニ異存ナシ尚「アヂ

三七

一 对中国新借款団ニ関スル件 二二

ス」ト一応打合ノ上大久保ヨリ直接仏国団代表者ニ対シ「レポート」中一部公表見合セノ理由ヲ問合ハサレシメラレ併セテ全文公表方ニ同意スル様勸説セシメラレ結果電報アリタシ

二二 六月二十三日 在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

借款団倫敦會議報告書公表問題ニ関スル訓令

ニ付意見稟申ノ件

第三八〇号

(六月二十五日接受)

貴電第二三七号中段ニ関シ往電第三七二号「アデス」談話ノ通仏国へ申入ルルノ上ハ仏国力飽ク迄全部公表ヲ肯セサル場合当然全部発表ヲ見合ハスコト相成ル順序ナル処右ニテ差支ナキ儀ナリヤ前記貴電前段ニハ全部見合セニハ御不同意ノ如キ文句モ見エ彼此關係聊カ不明瞭ニ付此点念ノ為至急回電ヲ請フ尚全文公表ノ場合往電第三四二号ノ如キ場合ノ説明ヲ加フルコトヲ提議シ借款団自体ト「カウンシル」トノ無關係ヲ此上余リニ高唱スルニ於テハ是レカ爲我方ノ真意ニ対シ却テ痛クモナキ腹ヲ探ラルル虞アリ旁全文公表ノ場合ニ於テモ右様説明ヲ加フルコトハ差控フルコト

貴電ト共ニ米ニ転電仏へ郵送セリ

二三

六月二十八日 内田外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛(電報)

对中国借款団倫敦會議報告書全部公表ヲ仏国側承諾セザルトキハ全部公表見合セ差支ナキ

旨訓令ノ件

第二四三号

貴電第三八〇号ニ関シ帝國政府ニ於テハ「レポート」ヲ公表スルヲ可トスル意向ナルコト往電第二三七号前段申進タル通ナルカ仏国側ニ申入ノ結果同国団ニテ全部ノ公表ヲ承諾セサルニ於テハ英米側ノ意向モアリ全部公表見合ハスコトトシ差支ナシ尚貴電第三八〇号中段仏国団ノ意向(一)ハ寧ろ輕微ノ問題ニテ如何ニ決定スルモ為ニ公表ノ可否ヲ決スヘキ程ノモノトハ思考セラレス又(二)仏国団ハ第二十四条乃至第三十条ニ対スル意見ノ発表ヲ躊躇シ居ル趣ナルカ当方トシテモ「レポート」ノ内容ニ立入ルトキハ多少考慮ヲ要スル点ナキニ非スト雖「カウンシル」ノ性質ニ関シ適當ナル説明(必スシモ貴電第三四二号ノ通ナルヲ要セス簡單ナル説明ニテ可ナリ)ヲ加フルニ於テハ何等誤解サルルカ如

一 对中国新借款団ニ関スル件 二三 二四

三八

ト致シタシ次ニ貴電後段公表一部見合セ理由ニ付テハ前電詳報ヲ略シタルモ右ハ六月十三日附仏国代表者ヨリ「アデス」宛通告(写六月二十一日附公第一〇八号往信ニテ送付セリ)中ニハ(一)第九条乃至第十一条ハ白、伊阿国団ノ地位ニ付財団ニ報道ヲ為スニ止マリ公表スルタメノモノナラス又若シ然ラサルニ於テモ単ニ此等個条ヲ關係者ニ通告スレハ足ルベク(二)第二十四条乃至第三十条ニ付テハ仏国団トシテハ未タ其ノ意見ヲ発表シ得ス從テ往電第三六六号所載ノ理由竝公表ノ利益ヨリモ公表ニ基ク不利不便ノ方遙ニ大ナルヘシトノ理由(是ヨリ先キ六月七日附仏国団書翰中第三十条ニ対スル日本國ノ態度ニ対シテモ同様ノ事ヲ述ヘアリ)ニ依リ右各条公表見合セヲ可ナリトスト記載シアルニ付此上在英仏国団ニ書面問合セヲ為ス要ナルヘク殊ニ「アデス」トノ關係ヨリ見ルモ本件「カウンシル」會議カ当地ニ於テ開催セラレ同人議長タリシ關係上自然同人ニ於テ万事交渉ノ中心トナリ居ルニ顧ミ御来示ノ通飯令同人ト一応打合セノ上ナリトモ直接交渉ヲ試ムルコトハ面白カラスト存セラルルニ付旁貴電後段ノ点ハ見合ハサシムヘキニ付御承知置相成度シ

キ懸念無之コトト思考セラルニ付同国団へ申入ルルニ際シテハ此点ヲモ申添フル方然ルヘク又愈々公表ノコトナラハ是非適當ナル説明ヲ附スルコトト致度シ重ネテ申進ス尚往電第二三七号末段ニ関シ仏国側ノ理由ハ貴電第三八〇号ニヨリ判明セルニ付照会ノ件ハ見合セラレ差支ナシ

二四 七月二十一日 内田外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛(電報)

借款団倫敦會議報告書公表問題其後ノ成行ニ

付報告アリタキ件

第二七二号

往電第二四三号ニ関シ

「カウンシル、レポート」公表ノ件ハ其後如何相成タルヤ何分ノ儀電報アリタシ尚今般在支公使報告ニヨレハBanque Belge pour l'Etranger在北京專務取締役 Disièreハ白耳義銀行団ノ新借款団加入ヲ賛成セス寧ろ借款団外ニ在リテ活動セント欲スル為同団ノ加入問題決セサル趣ナリ御含迄申添フ

後段仏、米、白ニ転電アリタシ

三九

一 对中国新借款团ニ関スル件 二五 二六

二五 七月二十六日 在英国林大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

借款团倫敦會議報告書公表無期延期ニ決定ノ  
件

第四三六号

（七月二十七日接受）

往電第四三三三号ニ関シ

「アデス」ヨリ七月二十五日附大久保宛書面ヲ以テ其後同人ヨリ在北京四国团宛支那ノ政情ト本件「レポート」公表トノ關係ヲ問合セ置キタルニ対シ公表ヲ不得策トスル旨回電アリタル趣ヲ以テ「アデス」自身ハ依然發表ヲ可トスル意見ヲ捨テザルモ多数ノ反対意見アルニ鑑ミ本件公表ハ無期延期ト致シタシト申来レリ尚右「アデス」申越中往電第三七二号仏国本部ヘノ申入ニハ何等触レ居ラザルニ付此点在米大使ヘ轉電シ在仏大使ヘ郵送セリ

二六 七月二十九日 在英国林大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

借款团倫敦會議報告書公表問題ニ関シアデス  
ノ大久保ニ対スル内話報告ノ件

第四四四号

（七月三十日接受）

## 事項二 中国外債整理借款問題一件

二七 七月一日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

公債發行及前貸ニ依リ中国外債ヲ整理スルコ  
トトシテハ如何トヒリヤー氏ヨリ小田切ニ申  
出デタル件

第四七八号

（七月一日接受）

小田切ハ当地著以来英国団体代表者等ト無担保及担保不完全ノ外債全部整理問題ニ関シテ意見交換セシ処二十八日「ヒリヤー」ハ小田切ヲ来訪シテ善後借款同様ノ担保ヲ以テ一面約三四億万ノ公債ヲ發行シ各外国債権者ノ同意ヲ得テ其所有スル外債ト交換セシムルコトトシ他面財政総長希望ノ六ヶ月間毎月二百五十万元ノ前貸ハ請求通貨付ヲ承諾シ而シテ此前貸償還及其他或ハ小額ノ現金償還ヲ要スル外債償還ニ必要額丈ハ前記公債ヲ現実市場ニ發行スルコトトシ以テ支那外債ヲ整理シテハ如何ト申出同時ニ今回ノ財政総長申出ハ外国側ニ右提議ヲ為スノ好機会ヲ与ヘタルモノニシテ之ヲ失フトキハ当分ノ間ハ外債整理協議ノ端緒ナカ

二 中国外債整理借款問題一件 二七

四〇

往電第四三六号ニ関シ「アデス」及同人「セクレタリー」ガ大久保ニ語ル処ヲ綜合スルニ公表ニ対シ其后「スチブンス」ニ於テ反対説ヲ唱ヘタルヤニテ若シ出先ニ於テ公表ヲ可ナリトセバ「ス」ニ於テモ或ハ同意スベシトテ一先ヅ出先ノ意見確メ方ヲ米国团ヨリ提議シ来リタル結果「アデス」ニ於テ在北京四国团ト前電所報ノ通電報ヲ往復シタル次第ノ由、尚ホ前記往電末尾仏国团トノ關係ニ関シテハ「アデス」ノ説明ヨリ察スルニ右米国側トノ経緯ノ為交渉進捗シ居ラザルモノノ如キ趣ナリ

在米大使ヘ轉電シ在仏大使ヘ郵送セリ

ルヘキ旨附言セル由ニ之レアリ右「ヒ」ノ意見ハ現在及將來ニ於ケル塩税関稅其モノノ負担スル外債額ハ勿論本問題ト新関稅条約実施トノ關係ヲモ調査シ更ニ進テ現ニ関余塩余ヲ担保トスル内債整理ノ問題ヲモ同時ニ考慮スルニ非ザレバ事ノ利害及良否ヲ判断スルヲ得ズ從テ之ニ対シ小田切ニ於テ直ニ確答ヲ与フル能ハザリシモ同人ノ意見トシテハ支那外債ノ根本的整理ハ必ズ主トシテ塩税関稅ヲ担保トスル公債ニ依ラザルベカラザルハ「ヒ」ノ意見ノ通ナルノミナラズ此ノ際塩余担保ノ外債等ヲモ塩税関稅担保ノ公債ニ引換シムルノ必要アルハ疑ヲ容レザル所ニシテ一方本邦側ノ借款全部ヲ右方法ヲ以テ確實ナル公債ニ化セントスル企図ニ関シテハ外人側ニ於テ兎角ノ評ヲ試ムルモノ無キニアラザル際今回「ヒリヤー」ヨリ進ンテ右意見ヲ提出セシ機會ヲ把握シ本計畫ヲ成功セシムルヲ有利ト認メタル小田切ハ「ヒ」ニ対シ個人トシテ主義上同意ヲ表シ且日本側債権ハ西原借款ヲモ含ムヲ以テ其額巨大ナル旨ヲモ話シタルニ対シ「ヒ」ハ右ニ異議無キ旨答ヘタル由右「ヒ」ノ意見ニ

四一